



令和5年度 全国学力・学習状況調査の結果と分析

4月18日(火)に、全国の中学3年生を対象に実施しました『全国学力・学習状況調査』の結果について、全校生徒、全保護者の皆様に概要をお知らせします。※今年度は英語で【話すこと】調査を行いました。

学校としましては、採点結果を基に、課題を重点化し、その解決に向けて取り組みながら、さらなる分析をもとに、授業改革、指導法の検証・改革に努めているところです。ご家庭におきましても、参考にいただければと思います。

※個人の結果(筆記・話すことの2種累)については、既に個票を配布しています。

1 各教科の結果

国語	= 全国平均の正答率と比較して	『上回っている』
数学	= 全国平均の正答率と比較して	『やや上回っている』
英語	= 全国平均の正答率と比較して	『上回っている』
英語(読対)	= 全国平均の正答率と比較して	『同様である』

2 各教科、領域別の結果

【国語】

15問中平均正答率は11.4問でした(全国平均は10.5問)。領域別(話す・聞く、書く、読む)で見ると、どの領域も全道・全国を上回っていますが、特に「書く」「読む」の領域については、全道・全国を大きく上回っています。無回答率は、全道・全国と比べると低く、課題に対して粘り強く最後まで向き合っている様子が伺えます。

なお、正答率の低かった問題は「文脈に即して漢字を正しく書く」という問題(本校正答率46.4%)と、「文章の構成や展開、表現の効果について根拠を明確にして考える」という問題(本校正答率58.9%)でした。

近年、コロナ禍も相まって、スマホやタブレットの使用頻度が高くなり、『漢字を書く』という習慣が低くなっている事が原因の一つと考えられます。漢字の書き取りは、しっかりと自分の手で行わせる練習が必要であることが分かりました。また、自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことは大切なことです。自分の考えが伝わる意見文にするために、本やネットからの情報を引用することでその意見文に説得力をもたせることができます。今後の学習にいかしていきたいものです。

【数学】

15問中平均正答数は7.9問でした(全国平均は7.6問)。平均正答数・率ともに、全道・全国をやや上回っています。領域別では「データ活用」の領域で全国と比べ-3.6と、唯一下回っています。

正答率の低かった問題は「空間における平面が同一直線上にない3点で決定されることを理解しているか、正しい記述を選ぶ」という問題(本校の正答率は25.0%)でした。図形の性質を考察する場面において、事象を数・量・図形等に着目して観察することや、図形の性質を考察する場面では、空間における直線や平面の位置関係を捉えることが大切です。

空間図形について、数学的活動を通して、空間における直線や平面の位置関係をしっかり理解するよう、似たような問題を繰り返し解いてみましょう。

【英語】

17問中平均正答数は8.5問でした（全国平均は7.7問）。平均正答数・率、ともに、全道・全国を上回っています。領域別では全ての領域で全国平均を上回りました。

また、【話すこと】調査においては、5問中平均正答数が0.6問でした（全国平均は0.6問）。平均正答率が13%で全国の平均正答率12.4%とほぼ同様の値となりました。

正答率の低かった問題は「日常的な話題について、事実や自分の考えなどを整理し、まとまりのある文章を書く」という問題（本校の正答率は9.9%）でした。身につけた知識や技能を使って、簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章を書くことが求められます。単語や文法は覚えていても、実際にまとまりのある文書を書くには、繰り返し書く練習が必要となります。また、【話すこと】調査において正答率の低かった問題は「疑問文の特徴を理解し、その知識をやり取りの場面において活用できる技能を身につけているか」という問題（本校の正答率は5.4%）でした。

聞くこと、読むこと、書くことについては、概ね学習内容が身につけていると判断されますが、英語を使ったコミュニケーション能力が十分に身につけていない実態が明らかになりました。どの学年も、今まで以上に根気強く、英作文に取り組み、英語でのコミュニケーションにも慣れてほしいものです。

3 生徒質問紙の分析

生徒質問紙は、生徒個人の生活や学習について質問したものです。全部で72問あり、全てを載せることはできませんので、特徴的な所を抜粋して紹介します。

【全国学習状況調査の結果・生徒質問紙から】（一部抜粋）

◎ = 全国平均を比較的上回った質問項目

△ = 全国平均を下回った質問項目

- ◎ 朝食を毎日食べている。
- ◎ 自分にはよいところがある。
- ◎ 先生はあなたの良いところを認めてくれている。
- ◎ 将来の夢や希望を持っている。
- ◎ いじめはどんなことがあってもいけない。
- ◎ 人が困っているときは進んで助けている。

- △ 人の役に立つ人間になりたい。
- △ 学校に行くのは楽しい。
- △ 友達関係に満足している。
- △ 新聞を読んでいる。

4 今後に向けて

令和5年度においても、野幌中学校の生徒は、大変落ち着いて学校生活を送っています。

全体として、望ましい生活習慣が身につけ、前向きに学校生活を送りながら、将来の夢や希望に向かって日々努力を続ける姿がみられます。しかし、生徒質問紙で全国平均を下回っている項目に関しては、学校の課題として捉え、生徒一人一人に寄り添いながら、改善していきたいと考えております。

今回3年生の『全国学力・学習状況調査』の【国語・数学・英語】の3教科全てにおいて、全道・全国平均を上回りました。また、4月に行った『NRT（標準学力検査）』の結果を見ても、全学年とも、偏差値51以上となっています。ただ、全学年に共通して『数学』への苦手意識が見られました。また、全国学力の結果から、『英語を使ったコミュニケーション能力』の向上も必須であると判断しました。野幌中学校の課題として、力を注いでまいります。

今後も家庭や地域、学校が連携して子ども達を健全に育成しながら自己肯定感や自己有用感をもてるよう、教育活動を推進していきたいと思っております。学校では引き続き、学習に関する指導、TTによる指導や習熟度別による個に応じた指導の一層の充実、ICTなどの教育機器を活用した授業づくりに取り組んでいきます。

「わかるようになりたい・できるようになりたい」と願っている生徒に寄り添い、定着が不足している分野を克服できるよう、授業改善、学習サポート等に取り組んでいきます。どうぞよろしくお願いいたします。

5 ご家庭へのお願い

これまで同様、お子さんが規則正しい生活を送り、復習を中心とした家庭学習や、読書習慣を伸ばしていただけるよう家庭でのご指導のほど、よろしくお願いいたします。

家庭学習習慣を身につけ、学習時間を伸ばすためにも、地道な声かけとともに、テレビやスマホ、インターネットの利用時間等について、今一度お子さんと話し合い、より望ましい方向へ向かうよう、ご指導いただければ幸いです。野幌中学校の子どもたちの夢の実現に向けて、支援の御協力をお願いいたします。